

柔軟で多様な働き方の実現に向けて

経済調査部 藤下 直人

ホワイトカラー・エグゼンプション

アベノミクスの3本目の矢である「成長戦略」。その中でも働き方改革は、様々な議論がされており、安倍首相が議長を務める産業競争力会議にて「ホワイトカラー・エグゼンプション」などが提案され、新成長戦略の目玉として6月に閣議決定されました。ホワイトカラー・エグゼンプションは直訳すると「事務系、管理系の労働者」に対する「除外」ですが、この除外は労働時間規制の適用除外を意味しています。『日本再興戦略』改訂版においては、「時間ではなく成果で評価される新たな労働時間制度の創設」と標記されており、今後厚生労働省に設置されている労働政策審議会にて詳細が検討されます。

人材こそが日本が世界に誇る最大の資源

雇用情勢をみると、2014年7-9月期は完全失業率が3.6%、有効求人倍率が1.10倍になるなど好調を維持し、人手不足感も高まっています(資料2)。ただ、今後、人口が減少していくことは明らかであり、労働力人口は労働参加が進まなければ、2030年には約5600万人まで落ち込むとの推計もあります(資料3)。労働経済白書では「人材こそが日本が世界に誇る最大の資源」であり、「働き手の数(量)の確保と労働生産性(質)の向上の実現が求められる」と記載しています。日本経済の発展に向け、今ある人材をしっかりと活用できる社会にしていくためにも、女性・若者・高齢者等の活躍推進が必要です。あわせて個々人の労働力の魅力を高めなければ生産性の向上ができません。ついては、人材育成も含め、量と質を後押しできるような資料1のような柔軟で多様な働き方の改革は極めて重要であり、今後注目しなければならない政策の一つです。

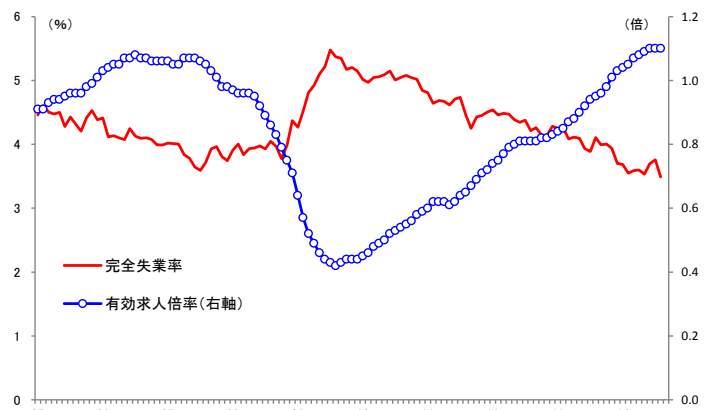
資料1 柔軟で多様な働き方の実現

＜新たに講じる施策＞

- 働き方変革のための労働時間制度の見直し
 - ①働き過ぎ防止のための取り組み強化
 - ②フレックスタイム制の見直し
 - ③裁量労働制の新たな枠組み
 - ④時間ではなく成果で評価される新たな労働時間制度の創設
- 職務等を限定した多様な正社員の普及・拡大
- 予見可能性の高い紛争解決システムの構築

(出所)「日本再興戦略」改訂2014より抜粋

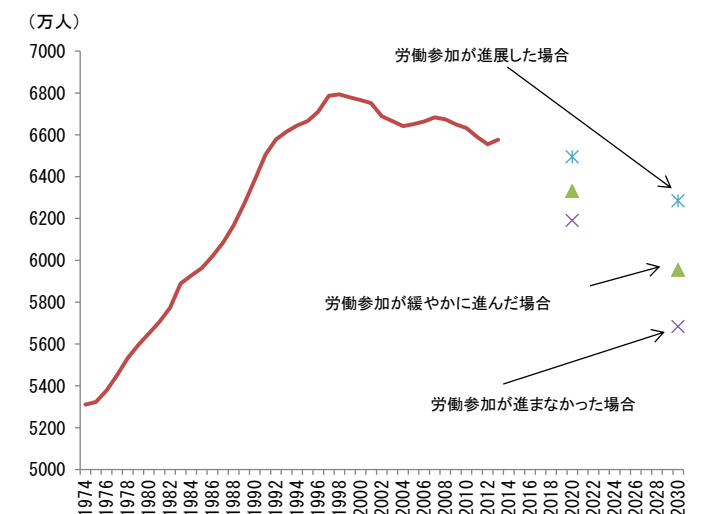
資料2 完全失業率と有効求人倍率の推移



(出所) 厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」

(注) 完全失業率の2011年3-8月は、補完推計値を用いた参考値

資料3 将来の労働力人口の推計



(出所) 総務省「労働力調査」、将来推計値は独立行政法人労働政策研究・研修機構。